

令和7年度国際関係学部一般選抜A個別方式（第2期）出題意図について

国 語

大問1

現代文(評論文)の読解力を試す問題。内容はよく知られた「アンパンマン」について考察している。アンパンマンの歴史的な変遷を追いながら、その存在のあり方の本質を提唱しており、この問題文を選んだのは、身近な存在から物事の本質を探究する方法を学んでほしいという意図がある。

- ・問一 慣用句の意味を問う。常識として知っておいてほしい言葉である。
- ・問二、三、四、八、九は、文章中のことばを問題文全体から正確に理解できているか、また、別の言葉で説明できるのかを問うている。
- ・問五、六は、正しい漢字表記ができるのかを問う。同時に慣用句、四字熟語、ことわざなどの知識の有無も試している。
- ・問七は、問題文中で提唱するアンパンマンの特質を象徴する語を抽出できるか、問うている。
- ・問十は、問題文全体を正確に読解し、理解しているのかを問うている。

大問2

現代文（評論文）の読解力を試す問題。内容は現代日本のオタク系文化とポストモダンの社会構造の関連性について論じたもの。馴染みのない概念や用語について、文脈を正確に読み取ることによって推測する能力を問うことを意図している。

- ・問一、三、五、九、十は、文章の内容を論理的に理解できているかを問う問題。
- ・問二、八は、漢字の読み書き能力を問う問題。
- ・問四は、語彙を問う問題。知識がなくても、前後の文脈から類推する能力があれば解答は可能。
- ・問六は、文脈を論理的に理解した上で、抽象的な概念から具体的な事例を導き出す能力を問う問題。
- ・問七、十一は、論理的に内容を理解しているかを問う空欄補充問題。
- ・問十二は、内容の要旨問題。本文の要点を理解した上で過不足なくまとめることができる能力を問う。

大問3

鎌倉期の物語評論『無名草子』を題材として、古文を正確に読解する能力や古典文法、文学史の流れに関する理解力を問う。

- ・問一と問二 古典文法の基礎知識を踏まえ、係り結びの法則や助動詞について理解しているか確認した。
- ・問三 古文を正確に読解できているか問うた。「口惜しけれ」の理由について問うことで、前後の文脈が理解できているか確認した。
- ・問四 古典の基礎知識を踏まえ、有名な文学作品の冒頭文を理解できているか確認した。
- ・問五 典の基礎知識を踏まえ、昔の地名について理解しているかについて確認した。
- ・問六 古典の語彙「いとほしき」について、理解できているか問うた。
- ・問七 古文を正確に読解する能力を問うた。問題文の内容と合致するものについて問うことで、問題文全体の内容について理解できているか確認した。
- ・問八 文学史の基礎知識を踏まえ、『無名草子』の成立やジャンルなどについて理解できているか確認した。